

平成 30 年度 第 1 回 霧島市ふるさと創生有識者会議

開催日時	平成 30 年 7 月 11 日 (水) 10:00~11:40		
開催場所	国分シビックセンター行政庁舎棟 別館 4 階 大会議室		
出席者	有識者	山尾 和廣 委員長、藤山 光隆 委員、岩元 保代 委員、 福園 ゆかり 委員、吉松 康雄 委員、重久 健 委員、小川 修 委員、 外山 浩己 委員、高山 美智子 委員、鶴ヶ野 未央 委員、福原 平 委員 (全 15 委員中 11 人が出席)	
	霧島市	霧島 PR 課：柳田 主幹兼シティプロモーション推進グループ長、美坂シテイ プロモーション推進 G 主査 商工振興課：梶 主幹兼商工観光政策グループ長	
	事務局	満留 企画部長、永山 企画政策課長、野崎 企画政策課長補佐兼行革推進 G 長、森山 主幹兼企画政策 G 長、西村 企画政策 G 主査	
公開・一部非公開又は非公開の別	公開	傍聴人数	0 人
<p>会次第</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 企画部長あいさつ 3 委員の紹介・あいさつ 4 霧島市ふるさと創生総合戦略の概要等について 資料 1 5 議事 <ol style="list-style-type: none"> (1) 委員長及び副委員長の選任について (2) 平成 29 年度地方創生推進交付金事業について 資料 2、資料 2-2 6 報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) 平成 30 年度霧島市ふるさと創生総合戦略関連主要事業について 資料 3 (2) 第二次霧島市総合計画について 7 その他 8 閉会 			
<p>議事等の概要</p> <p>議事 ④：委員 ⑤：事務局</p> <p>(1) 委員長及び副委員長の選任について 【山尾和廣委員】が委員長に互選され、【藤山光隆委員】が副委員長に指名され、それぞれ挨拶を行う。</p> <p>(2) 平成 29 年度地方創生推進交付金事業について → 事務担当課（霧島 PR 課）から資料 2 及び資料 2-2 に基づき説明。委員からの主な助言・質問等は次のとおり。</p>			

㊦ 交換日記テーマとしたPR動画をユーチューブで拝見したが、よく出来ていると感じた。この動画の再生回数はどのぐらいか。

㊧ 昨年度の再生回数は25万回を超えている。

報告

㊦：委員 ㊧：事務局

(1) 平成30年度霧島市ふるさと創生総合戦略関連主要事業について

→ 事務局から資料3に基づき説明。委員からの主な質疑、助言・提言等は次のとおり。

㊦ 基本目標Ⅰの中小零細企業持続化支援事業の窓口はどこか。また、地域資源プロデュース事業の地域おこし協力隊の申込状況はどうか。

㊧ 中小零細企業持続化支援事業については、商工会、商工会議所の窓口をとおして申請をいただいている。地域おこし協力隊については、3名の募集に対し、現在、1名は決定しており、来月から着任をする予定としている。

㊦ 基本目標Ⅳのコミュニティバス等運行事業に75,480千円という事業費が計上されているが、利用者が少ないのではないかというような声も聞く。事業の見直しや利用者の傾向など分っている範囲で教えていただきたい。

㊧ コミュニティバス等運行事業については、委員から指摘があったように、乗車率が思うように伸びない状況である。利用促進について、担当課で検討をしているところである。また、一部地域では、コミュニティバスから、デマンド交通、タクシーへの切り替えをしている地域もある。しかしながらタクシーのデマンド交通についても、利用者が伸びないという状況がある。

溝辺地区のみで運行していたコミュニティバスの路線変更を行い、隼人駅まで運行させるなど工夫をしながら利用促進に努めているところであるが、利用者増というのは、大きな課題である。

㊦ 4つの基本目標ごとに振分けられた予算配分の意図は何か。

㊧ 基本目標ごとの予算配分について、基本目標Ⅲについては、子ども医療費助成事業など扶助的経費に関する部分であるが、扶助的経費については、年々増加傾向にある。また、市長が公約で子育て環境の充実を掲げているといったことから、重点配分したところである。

基本目標Ⅳについては、一昨年、隼人町姫城地区・東郷地区において、豪雨による浸水被害が発生したところであり、課題解決のために総合治水対策事業

費について計上したところである。また、山崎線街路整備事業については、資料に記載があるとおおり、都市計画道路新町線と市街地を東西方向に走る都市計画道路参宮線に接続する路線である山崎線の整備を行うものであり、道路交通渋滞の緩和についても、市長が公約に掲げていることから重点配分したところである。

㊦ この地方版創生戦略というのは、2060年における本市の人口13万人の達成に向けて設定した重要業績評価指標（KPI）を達成しているのかどうか、PDCAサイクルをまわして、施策そのものが本当に最終的な結果に繋がっていくのかどうかということを検証しなければならない。総合戦略を策定して3年間経過したが、一回も霧島市の人口推移を示されていない。総合戦略の計画期間の半分以上が過ぎたが、人口はどのように推移し、課題解決のためにこのような予算を計上し、施策を進めるといったものであれば良いが、今の話は少し違うのではないか。

㊧ ご指摘のとおり、総合戦略に掲げる目標を達成していくためにどのような事業を進めていくのかということが重要であると考え。基本目標Ⅱに掲げている【学生就職支援プロジェクト推進事業】や【中学生の挑戦！「霧島しごと維新」事業】で地元就職していただくような取組を進めているところである。

資料に掲載はないが、中山間地域あるいは市街地の空き家等へ、市外からの転入に対する移住定住促進助成制度を実施している。しかしながら、中山間地域における人口減少に歯止めがかからない状況である。総合戦略に掲げる目標を達成するためにも今後ご助言をいただきたい。また、この総合戦略の目標を達成できるような予算配分も検討したい。

㊨ この目標人口13万人はどうかと考えている。例えば2040年は11万2千人、1万5千人ぐらい減少するといった推計がでているが、さらにその20年後の2060年に13万人に増加させるというのは、現実とかけ離れているのではないか。

㊩ 人口13万人という目標設定については、総合戦略を策定した際の有識者会議の中でも叱咤激励という意味も込められていたと認識している。

国においては、「まち・ひと・しごと創生法」が施行され、東京一極集中の是正などを目的にこれまで取り組んできたが、結果的には、東京への一極集中が加速化し、地方の人口減少が止まらない。そのような状況の中で、霧島市だけが人口が増えても駄目であり、国全体で人口が増えなければならないと考える。仮に霧島市だけ人口が増えても、隣の自治体の人口が減少すれば、その面倒を誰かが見なければならない。そこを県が見なさい、又は大きな自治体が

面倒を見なさいと、今流れが変わりつつある。そういった状況の中で、はたして霧島市の人口 13 万人という目標が良いのかどうかと考えた時に、これはあくまでも目標ということで、現実的な路線でも考えていかないと様々な計画に影響がでてくるとも認識している。この目標人口については、本総合戦略の計画期間が平成 31 年度までとなっているので、考え方について次期総合戦略で検討していきたいと考えている。

㊦ 基本目標Ⅱに予算が多く配分されているようである。西郷どん村に足湯を建設すると記載があるが、長く個人で温泉を経営されている方のところに観光客が訪れるような整備や、コミュニティバスについても観光バスと連携できるような整備をお願いしたい。無駄の無い予算配分をお願いしたい。

㊧ ご指摘のとおり、今年度、西郷どん村のレストラン・足湯の建設を計上している。造って終わりということではなく、今、ご提言いただいたように、近隣の観光に繋がるような対策を検討していきたい。

また、コミュニティバスについても地域公共交通会議の中で、利用増を図るための協議を進めていきたいと考えている。

(2) 第二次霧島市総合計画について

→ 事務局から【第二次霧島市総合計画】冊子に基づき説明。委員からの主な質疑等は次のとおり。

㊦ 霧島市は、空港・JR といったアクセスや、立地している企業などを見ても恵まれた土地であると感じている。第二次総合計画、よくまとまった計画であるが、是非とも絵に描いた餅にならないようにしてほしい。そのためには、やはり PDCA をまわす仕組みをもう少し考えたほうがよいと感じる。

また、本日の議論は、今年度実施する重点計画についての議論であったが、何を振り返り、何を課題として、どこに重点をおいて今年の計画が出てきたのか、ストーリーとして紹介いただければ、理解しやすかった。

その他

㊧ 総合戦略に掲げる重要業績評価指標 (KPI) の検証及び人口推移については、次の有識者会議において提示したいと考えている。

会議資料	会次第
	資料1 霧島市ふるさと創生総合戦略の概要等について
	資料2-1 平成29年度地方創生推進交付金事業検証シート
	資料2-2 平成29年度地方創生推進交付金効果検証資料
	資料2-3 参考グラフ（社会動態・地元就職率・交流人口）
	資料3 平成30年度 霧島市ふるさと創生総合戦略関連主要事業 冊子 第二次霧島市総合計画